



管理ツール 操作マニュアル

S01-03 ファイル加工設定

株式会社 エヌジェーケー

- ・このソフトウェアの著作権は、株式会社エヌジェーケーにあります。
- ・このソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で使用、複製することは法律で禁止されております。
- ・このソフトウェアおよびマニュアルは、本製品の使用許諾契約書のもとでのみ使用することができます。
- ・このソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果の影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- ・このソフトウェアの仕様およびマニュアルに記載されている事項は、将来予告なしに変更することがあります。
- ・このマニュアルで使用している画像には、開発中のものも含まれます。実際の製品と異なる場合がございますことをご了承ください。

DataNature および DataNature Smart は、株式会社エヌジェーケーの登録商標です。
その他の商品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

CONTENTS

マニュアルの表記	S01-03_0
1.DataNature Smart 全体概要図	S01-03_1
2.基本操作	S01-03_2
2-1 ジョブの作成	S01-03_2
◆レコード集計	S01-03_3
◆ファイル分割	S01-03_5

マニュアルの表記

◆ 呼称について

本マニュアルでは以下の呼称を使用しています。

DataNature Smart 管理ツール :DN 管理ツール

DataNature Smart クライアント :DN クライアント

◆ 画面に表示されるコマンド名などの文字

コマンド名やダイアログボックス名など、画面上の固有の文字は [] で囲んで表記します。なお、ユーザーによって異なるデータボタンは < > で囲んで表記します。

【例】

[編集]コマンド、[検索]ダイアログボックス

<大阪営業所>データボタン

◆ マニュアルで使用しているアイコン



“注意”を意味します。

知っておくべき重要な事柄や行なってはならない操作など、注意すべきことについて記載されています。



“ポイント”を意味します。

操作や内容のポイントとなる事柄について記載されています。



“参考”を意味します。

知っておくと便利な操作や内容などのノウハウについて記載されています。



“参照”を意味します。

操作や内容に関連するマニュアルの参照ページについて記載されています。

◆ マニュアルで使用している画像について

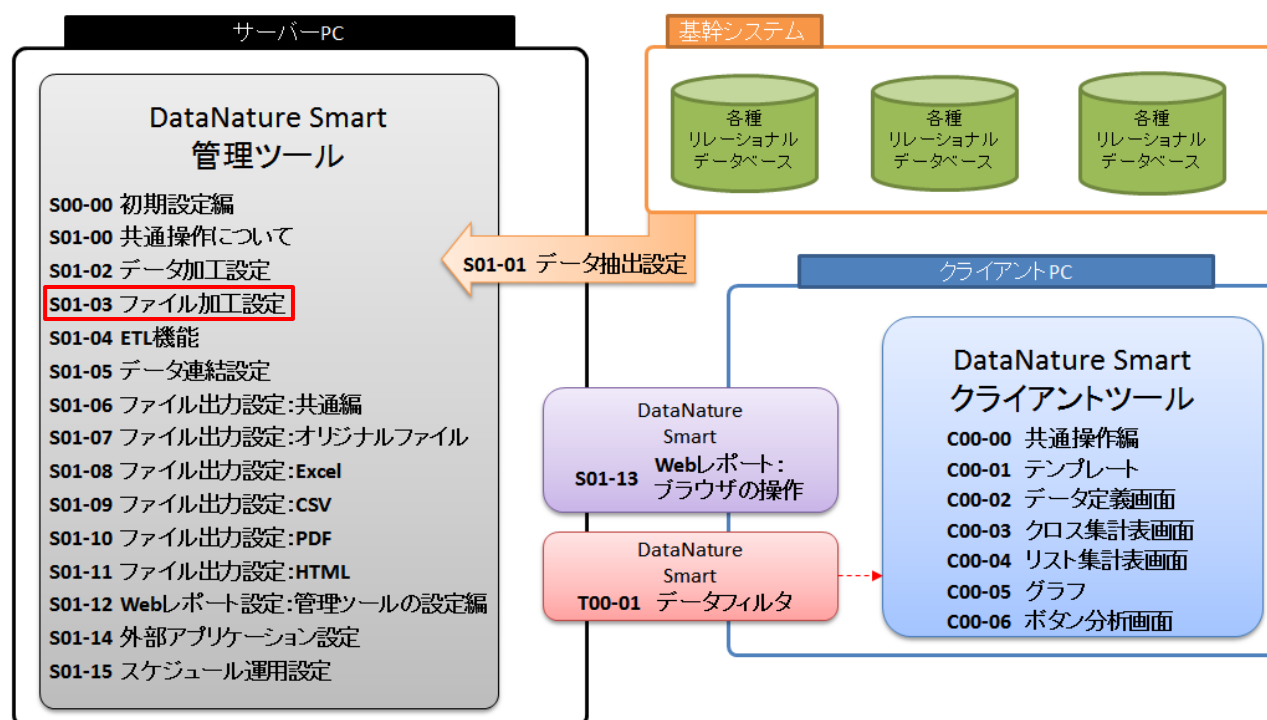
マニュアルで使用している画像には、開発中のものも含まれます。実際の製品と異なる場合がございますことをご了承ください。

◆ 機能について

導入された製品構成によって、利用できない機能や制限があります。

1. DataNature Smart 全体概要図

本マニュアルでは、S01-03 ファイル加工設定について記載しています。



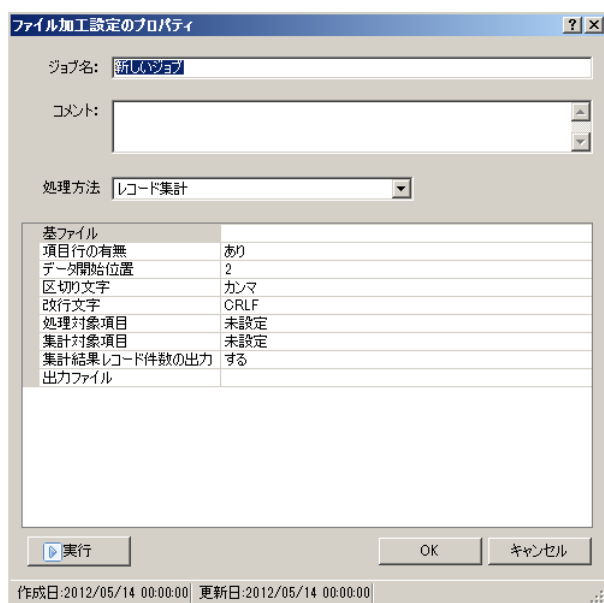
2. 基本操作

2-1 ジョブの作成

ファイル加工設定では、テキストファイル(*.csv)のデータレコードを要約(レコード集計)したり、複数のファイルへ分割(ファイル分割)することができます。大量データを扱う場合など、分析の目的に合わせて、クライアントツールで処理するデータ件数を絞り込みます。

◆ レコード集計

- 1  DN 管理ツールの[DataNature の管理]-[ジョブ設定]ノードをクリックし、メニューバー[ジョブ設定]-[ファイル操作系作成]-[ファイル加工設定]をクリックします。
([DataNature の管理]-[ジョブ設定]-[ファイル加工設定]ノード上のコンテキストメニュー[新しいジョブ])
▼[ファイル加工設定のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。



基ファイル	
項目行の有無	あり
データ開始位置	2
区切り文字	カンマ
改行文字	CRLF
処理対象項目	未設定
集計対象項目	未設定
集計結果レコード件数の出力	する
出力ファイル	

- 2 [ジョブ名:]テキストボックスに、ジョブ名を入力します。
- 3 [コメント:]テキストボックスに、ファイル加工設定についての説明などを任意に入力します。
- 4 [処理方法]ドロップダウンリストから、ファイル操作の処理方法(ここでは、[レコード集計])を選択します。
- 5 続いて、処理対象となる「基ファイル」を指定し、そのファイル内のデータ形式も指定します。

基ファイル	レコード集計を行うファイルです。
項目行の有無	第1行目に項目名称が存在する場合は[あり]を、存在しない場合は[なし]を選択します。
データ開始位置	処理するデータの開始レコード行番号(半角数値)を入力します。
区切り文字	区切り文字の種類を、コンボボックスで、[カンマ]、[タブ]から選択します。
改行文字	改行文字の種類を、コンボボックスで、[CRLF]、[CR]、[LF]から選択します。

- 6 集計のキーとなる項目を選択するため、[処理対象項目]欄の参照ボタンをクリックします。

▼[処理対象項目設定]ダイアログボックスが表示されます。[項目選択]欄には基ファイルで指定したデータの項目列名称が表示されます。



[処理対象項目設定]ダイアログボックス、および、[集計対象項目設定]ダイアログボックス(後述)に表示される項目名は、基ファイルの1行目にあるデータです。[項目行の有無]で[なし]を選択した場合は、「項目 001」、「項目 002」のような連番が表示されます。

- 7 [項目選択]欄に表示されている項目リストから、処理対象としたい項目をクリックして選択し、[追加>>]ボタンで[選択済み項目]欄に追加します。最大 8 項目まで選択できます。[Ctrl]キーを押しながら項目を選択すると、複数の項目を同時に選択できます。



[処理対象項目設定]ダイアログボックス、および、[集計対象項目設定]ダイアログボックス(後述)の右側にある[選択済み項目]の一覧リストでは、項目の並び順を編集することができます。順序を編集したい項目を選択し、右側にある[▲]/[▼]ボタンで移動してください。

- 8 設定後、[OK]ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じます。
- 9 続いて、集計する値となる数値項目を選択するため、[集計対象項目]欄の参照ボタンをクリックします。
- ▼[集計対象項目設定]ダイアログボックスが表示されます。[項目選択]欄には基ファイルで指定したデータの項目列名称(手順⑦で選択した項目を除く)が表示されます。

- 10 [項目選択]欄に表示されている項目リストから、集計対象としたい数値項目をクリックして選択し、[追加>>]ボタンで[選択済み項目]欄に追加します。最大 8 項目まで選択できます。[Ctrl]キーを押しながら項目を選択すると、複数の項目を同時に選択できます。



集計対象項目に、数値以外の項目を指定した場合は、文字を数値に置き換えて集計します。

- 11 設定後、[OK]ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じます。
- 12 次に、[集計結果レコード件数の出力]と[出力ファイル]を指定します。

集計結果レコード件数の出力 集計処理したレコード件数出力するかしないかを選択します。
出力ファイル レコード集計した結果を出力するファイルを指定します。



[実行]ボタンをクリックすると、[読み込み件数の設定]ダイアログボックスが表示され、件数を限定してテスト実行することができます。

- 13 設定が完了しましたので、[OK]ボタンをクリックし、ジョブを登録します。
▼[ファイル加工設定のプロパティ]ダイアログボックスが閉じ、管理ツールの画面に戻ります。設定した内容がプロパティ表示領域に表示されます。

◆ ファイル分割

- ① DN 管理ツールの[DataNature の管理]-[ジョブ設定]ノードをクリックし、メニューバー[ジョブ設定]-[ファイル操作系作成]-[ファイル加工設定]をクリックします。
 ([DataNature の管理]-[ジョブ設定]-[ファイル加工設定]ノード上のコンテキストメニュー[新しいジョブ])

▼[ファイル加工設定のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

基ファイル	
項目行の有無	あり
データ開始位置	2
区切り文字	カンマ
改行文字	CRLF
処理対象項目	未設定
最大出力ファイル数	制限なし
出力ファイル作成方法	連番形式
出力ファイル基準文字列	
出力フォルダ	¥

- ② [ジョブ名:]テキストボックスに、ジョブ名を入力します。
 ③ [コメント:]テキストボックスに、処理の説明などを任意に入力します。
 ④ [処理方法]ドロップダウンリストから、ファイル操作の処理方法(ここでは[ファイル分割])を選択します。
 ⑤ 続いて、処理対象となる基ファイルを指定し、そのファイル内のデータ形式も指定します。

基ファイル	ファイル分割を行うファイルです。
項目行の有無	第 1 行目に項目名称が存在する場合は[あり]を、存在しない場合は[なし]を選択します。
データ開始位置	処理するデータの開始レコード行番号(半角数値)を入力します。
区切り文字	区切り文字の種類を、コンボボックスで、[カンマ]、[タブ]から選択します。
改行文字	改行文字の種類を、コンボボックスで、[CRLF]、[CR]、[LF]から選択します。

- ⑥ 分割するキーとなる項目を選択するため、[処理対象項目]欄の参照ボタンをクリックします。
 ▼[処理対象項目設定]ダイアログボックスが表示されます。[項目選択]欄では基ファイルで指定したデータの項目列名称が表示されます。

項目選択	
項目番号	項目名
1	売上日
2	部門名
3	担当者名
4	顧客名
5	分類
6	メーカー名
7	商品名
8	売上金額
9	粗利額
10	時間
11	時間単価



[処理対象項目設定]ダイアログボックスで表示される項目名称は、基ファイルの 1 行目にあるデータです。
 [項目行の有無]で[なし]を選択した場合は、「項目 001」、「項目 002」のような連番が表示されます。

- 7 [項目選択]欄に表示されている項目リストから、処理対象としたい項目をクリックして選択し、[追加<<]ボタンで[選択済み項目]欄に追加します。最大 8 項目まで選択できます。[Ctrl]キーを押しながら項目を選択すると、複数の項目を同時に選択できます。



[処理対象項目設定]ダイアログボックスの右側にある[選択済み項目]の一覧リストでは、項目の並び順を編集することができます。順序を編集したい項目を選択し、右側にある[▲]/[▼]ボタンで移動してください。

- 8 設定後、[OK]ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じます。
- 9 次に、[最大出力ファイル数]、[出力ファイル作成方法]、[出力ファイル基準文字列]、[出力フォルダー]を指定します。

最大出力ファイル数	分割するファイルの最大数を指定できます。
出力ファイル作成方法	分割されるファイルの名称の付け方を指定します。 連番形式:[出力ファイル基準文字列]で指定した文字列に、「00001」から始まる連番を付与してファイル名とします。 参照形式:手順⑦で指定した分割キーとなった文字列をファイル名とします。
出力ファイル基準文字列	[連番形式]でファイル名を付与する場合の先頭文字列を入力します。
出力フォルダー	分割されたファイルを出力するフォルダーを指定します。



出力ファイルの名称について、[選択済み項目]で指定した項目名の文字列に、英字やファイル名に使用できない記号が含まれていた場合には、自動的に全角文字に変換して出力されます。

なお、処理対象項目を複数指定した場合は、ファイル名の最大サイズ(128 バイト)を分割項目数で等分し、これを1項目当たりで参照できる名称の上限サイズとします。また、ファイル名が重複した場合は、自動的に識別用の番号がファイル名の最後尾に付与されます。



[実行]ボタンをクリックすると、[読み込み件数の設定]ダイアログボックスが表示され、件数を限定してテスト実行することができます。

- 10 設定が完了しましたので、[OK]ボタンをクリックし、ジョブを登録します。

▼[ファイル加工設定のプロパティ]ダイアログボックスが閉じ、管理ツールの画面に戻ります。設定した内容がプロパティ表示領域に表示されます。

